

## ■鹿児島寄港時火災、隠す／米イージス艦 昨秋 機関室で

(10/26「南日本新聞」)

米海軍のイージス艦が昨年11月、鹿児島港に寄港した際、艦内の機関室で火災が発生、当時の艦長は今年2月に除隊処分＝が隠ぺいを指示したと、米海軍向けの新聞「ネイビータイムズ」が報道したことが26日、分かった。米側から鹿児島県などに火災について一切、連絡はなかった。

22日付の同紙によると、イージス艦は米サンディエゴ基地を母港とする「ハルゼー」。昨年11月2日夜、親善目的で寄港した鹿児島港で、日本人を招待して艦内で式典を開催し、招待客が帰った後に機関室から出火したという。

艦長と乗組員らは式典後も飲酒を続けたため、乗組員の中には「酔いすぎて火災に対処できない」者もあり、艦長は翌日、被害の程度を隠すよう指示したとされる。

同艦は応急修理をして出港後、機関室で爆発事故があり、修理費用は計850万ドルに上り、艦長は今年2月に除隊処分となったという。

鹿児島県と鹿児島海上保安部はいずれも「米側から火災の連絡は一切なく、何も知らされていなかった」としている。



2006年11月2日、鹿児島港に入港する米海軍のイージス駆逐艦「ハルゼー」＝鹿児島市谷山港1丁目

## ■米艦火災 鹿県、事実確認急ぐ

(10/27「南日本新聞」)

昨年11月に鹿児島港に寄港した米海軍のイージス艦「ハルゼー」が火災を起こし、鹿児島県や鹿児島海上保安部に一切通報しなかった問題で、県は26日、外務省に問い合わせるなど事実関係の確認を急いだ。県企画部は「事実関係がはっきりしないので今の段階ではコメントできない」としている。

政府と在日米軍の協議機関である日米合同委員会は「公共安全、環境に影響を及ぼす可能性がある事件・事故が発生した場合は直ちに日本側に通報する」と定めている。

外務省日米地位協定室は「今回の事案が通報が必要な場合に該当するかどうか分からない」としており、事実関係について米側からの回答を待っている状態だ。

米サンディエゴ基地所属の「ハルゼー」(排水量9200トン、全長約155メートル)は最新鋭のミサイル防衛システムを備え、巡航ミサイル「トマホーク」も装備している。「友好親善と乗組員の休養」を目的に2006年11月2日に鹿児島港谷山一区に入港。同6日出港した。県は核持ち込みに関する事前協議がなかったことを外務省に確認した上で係留を許可した。火災発生前に艦内であった式典には自衛隊関係者らが出席したという。

## ■米艦船(ハルゼー)入港時に火災隠し!真相解明求め県に要請書提出

2007.10.31

米海軍イージス艦(ハルゼー)が昨年11月鹿児島港に入港した際、艦内火災をおこしながら、県など関係する機関に一切通報がなかった問題を極めて重要なことととらえ、県憲法を守る会、社民党、平和運動センターでは、10月31日、火災の真相解明と米軍艦船の入港拒否を求める要請書を県知事に対して提出した。火災発生当時艦内ではパーティーがあり消火にあたった数人の乗組員も泥酔状態で、艦長が報告しないよう指示し隠蔽したと報道されている。昨年2月に入港した米イージス艦(ジョンSマッケイン)の油もれ事故に続く不祥事であり、入港目的を「乗組員の友好親善と休養、観光」とし事故の隠蔽を画策しながら「良き隣人としての友好親善」とはとても思えない。真の狙いは、「港湾の詳細な調査と訓練・市民感情の慣らし」である。核搭載可能な「トマホーク」を装備した艦船でありながら米軍は核兵器搭載について「肯定も否定もしない」という政策を維持し、「核を搭載していない」ことの言明を拒んでいる。米国自らが「非核」を証明しない限り、国是の「非核三原則」を守る上からも県は入港を認めるべきではない。

